



白聖

はくあ 第17号 令和7年12月10日発行



《知っておきたい奨学金のこと》

志望校を決めるにあたり、研究や学問分野、校風、進路状況、留学制度、取得できる資格など、検討したいポイントはいろいろあります。しかし、世界情勢の影響などにより景気が低迷している今、学費など経済面が気になる受験生や保護者もいると思います。今号では本当に納得のいく大学選びを経済的理由で諦めなくて済むよう、奨学金制度の基本と様々な例を紹介していきます。

【奨学金の基礎知識】

①「給付型」と「貸与型」

奨学金、は給付型と貸与型に大別されます。

給付型

原則、返還の義務はありません。

貸与型

返還義務があります。貸与型には、借りた金額だけを返還する「無利子」型と、借りた額に一定の利子をプラスした額を返還する「有利子」型の2つがあります。

※入学金や授業料など、学費の一部または全部が免除される「授業料等減免制度」を設けている学校もあります。

②「事前申請」と「入学後申請」

大きく分けて高校在学中と大学入学後の2つがあります。

事前申請

進学先が決まっていない段階で奨学金を申請するもの。申請方法は申請先によって異なり、高校3年生の春頃に在学する高校を通して行うものや、秋以降に受験する大学・奨学金を運営する学校・団体に自ら申請するものなどがあります。

大学入学後の申請

進学後の春または秋に、進学先の大学に、あるいは進学先の大学を通して申請を行います。申請時期は制度によって異なります。

その他の申請

進学前後のほか、保護者の病気、けが、災害などにより家計が急変した場合に利用できる奨学金もあります。

【公共の奨学金】

公的な奨学金制度は、最も多くの学生が利用しています。

日本学生支援機構（JASSO）

給付型のほか、無利子の第一種と利子付きの第二種があり、申請にあたっては、それぞれ学力の基準や家計収入の基準などが設けられています。

このほか、一時金として利子付きの「入学時特別増額貸与奨金」も用意されています。

奨学金の返還が困難な場合は、月々の返還額の減額や返還期間の猶予ができる制度があります。

保護者の収入基準としては、第一種が年収 747 万円以下、第二種が年収 1,100 万円以下（いずれも給与所得の 4 人世帯の目安）です。

◎第一種奨学金の貸与月額

区分		自宅	自宅外
大学	国公立	20,000～45,000円	20,000～51,000円
	私立	20,000～54,000円	20,000～64,000円
短期大学	国公立	20,000～45,000円	20,000～53,000円
	私立	20,000～53,000円	20,000～60,000円

◎第二種奨学金の貸与月額

区分、設置者、住まい問わず	20,000～120,000円
---------------	-----------------

◎貸与型奨学金の返還例

種類	区分	貸与月額	返還月額	返還年数
第一種奨学金	国公立〔自宅生〕	45,000円	12,857円	14年
	国公立〔自宅外生〕	51,000円	13,600円	15年
	私立〔自宅生〕	54,000円	14,400円	15年
	私立〔自宅外生〕	64,000円	14,222円	18年
第二種奨学金	※返還利率1.0%で計算	30,000円	9,892円	13年
		50,000円	14,428円	15年
		80,000円	17,737円	20年
		100,000円	22,172円	20年
		120,000円	26,606円	20年

※〈4年制の場合〉日本学生支援機構ウェブサイトをもとに作成

日本学生支援機構のホームページでは、全国の大学・地方公共団体・公益財団法人などの奨学金制度を検索したり、シミュレーションしたりすることができます。

地方自治体の奨学金

原則として保護者や家計支持者がその地方自治体に居住していることが申請条件になります。これに加えて、奨学金の対象となる学生が、その自治体の高校卒業生であることを条件とする場合もあります。奨学金は基本的に貸与型で、他制度との併用の可否は自治体によって異なります。基本的に、各自治体の教育委員会が窓口になっています。

また、奨学金ではありませんが、居住地にある公立大学に進学する場合にチェックしておきたいのが居住者対象の特典です。ほとんどの公立大学が居住地の証明書を提出することで入学金を減額する制度を設けています。

【民間の奨学金】

企業や民間の育英団体、財団法人が運営している奨学金です。企業の場合は、業種に関連した分野の学部・学科で学ぶ学生を対象にしているものが多く見られ、奨学金によっては学校や学年が指定されています。下記以外にも多くの団体が奨学金を実施しているので調べてみましょう。

奨学金を実施する団体の例

- 電通育英会 ●日本国際教育支援協会（JEES）
- トヨタ女性技術者育成基金 奨学支援コース
- コカ・コーラ教育・環境財団 ●読売育英奨学会
- 公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団

（裏面へ続く）

【大学独自の奨学金】

大学が独自に設けている奨学金の種類は様々です。最近
は自宅外通学となる学生を対象に、入学前に予約できる奨
学金を設置する大学も増えて、複数の特徴を併せ持っている
奨学金も多くあります。

試験出願前予約型	スカラシップ(特待生)型
入学の出願前に申し込み、審査を通ると奨学金の採用候補者となる。その後入試に合格し、所定の手続きをするおとで奨学金を受給できる。	入試の成績優秀者の奨学金を給付する制度。受給者決定用のスカラシップ入試を設けたり、一般選抜の成績上位者に給付する場合などがある。
4(6)年間継続型	医学系学生支援型
入学から卒業までの4年間(6年制の学部の場合は6年間)給付を継続するタイプ。継続のための成績条件が設けられていることが多い。	医学系の学生をサポートする奨学金。卒業後に指定の医療機関に就職し、一定期間勤務した場合に、返還が免除される奨学金もある。
留学サポート型	その他
海外留学を志す学生の支援。特定の留学プログラムのみが対象だったり、留学先の大学や期間が指定されている場合もある。	コンクール入賞者やスポーツ優秀者に対する奨学金や、特定の資格取得者を対象にした奨学金など、多様なものがある。

私立大学は国公立大学よりも学費が高いといわれますが、奨学金制度を上手に利用すれば、経済的負担に大差がなくなるかもしれません。しかし、貸与型なら大学卒業後に返還が義務づけられます。長い期間かけて返還していくことや滞納時のリスクも含めて、大学選びでは学びの内容や就職支援、資格取得などとともに、奨学金制度も確認してみましょう。

【河合塾 栄冠めざしてより引用・抜粋】

《受験生の体調管理のポイント》

いよいよ受験本番が近づいてきました。3年生の皆さんはラストスパートに向けて、意欲を燃やしていることと思います。12月から1月にかけての大学入試直前期は、受験勉強と同じくらい体調管理が大切になってきます。この時期をいかに健康に過ごすことができるかが、受験で合格を勝ち取るためのカギになります。そこで、受験生が特に気を付けたい体調管理のポイントについてお伝えするので是非とも参考にしてみてください。

◆感染症対策を徹底しよう

風邪や感染症予防の基本中の基本となるのは『手洗い・うがい』です。ウイルスがついた手で目や口などの粘膜に触れたり、そのまま食事をしたりすると感染リスクが高まります。外出先から帰宅した時はもちろんのこと、外出先でもこまめな手洗い・うがいを心がけましょう。またマスクの着用も感染症予防に有効です。どれだけ学力を高めて

も、試験本番で体調を崩してしまうと実力を十分に発揮することはできませんので、感染対策は徹底しましょう。

◆規則正しい生活リズムを心がけよう

日によって就寝時間や起床時間が異なるパターンは、質のよい睡眠がとりづらくなり、食欲不振や体調不良を引き起こすことがあります。不規則な生活リズムが原因で免疫力が低下し、感染症に罹患するという最悪の事態を避けるためにも、今のうちに生活リズムを整えておきましょう。進路通信第16号では『生活の質を向上させる睡眠のコツ』について詳しく解説していますので、ご覧ください。

◆学習環境を整えよう

気温と湿度が低く乾燥している環境では、ウイルスの生存率が高まるとされています。そのため、エアコンなどの暖房器具により部屋の湿度が下がっているときは、加湿器をつけるのがおすすめです。濡れタオルや洗濯物を部屋に干すことも手軽で効果のある方法です。冬場は外の空気が乾燥しているため、窓を開けたり換気扇を使用したりすると、室内の湿度がさらに低下しやすくなります。乾燥した部屋では、鼻や喉の粘膜も痛めやすくなるので、冬場であまり喉が渇いていなくても、適度な水分補給が大切です。

◆運動時のケガに注意しよう

勉強の小休憩や気分転換に軽めの運動をする人が多いと思いますが、この時期は運動によりケガすることがないように十分に注意しましょう。特に運動部で体力に自信がある人でも、現役時に運動に適応していた体が、引退によって「省エネモード」へ移行しているのも無理はいけません。特に、手のケガは受験に悪影響を与える可能性が高いので絶対に避けたいものです。また、ケガによる痛みがある状態では集中力も低下しますので、注意が必要です。



一つ一つは小さなことですが、注意を怠ると体調を崩すおそれがあるため、軽視するのは禁物です。体調管理を徹底し、ベストコンディションで受験当日を迎えられるようにしましょう。健康を保って受験勉強を最後までやり抜けるように頑張ろう、受験生諸君よ!!